

「NPOと広報」

一昨年(2001年)の11月、サポート資源提供システム構築に向けてサンフランシスコの幾つかのNPOを視察した。そのなかで特に印象的だったのが「パブリックメディアセンター(PMC)」というNPOの広告代理店である。PMCは企業の持つマーケティングの手法を積極的に取り入れ、NPOのメッセージをマスメディアを使った意見広告として発信するための様々なサポートを行っている。曰く、「私達はNPO業界の電通です」。

NPOが自身の活動の賛同者を増やし、活動のための資金調達を目指していくうえでも、団体の理念や実績などについて積極的に情報を公開していく必要がある。しかも、一般の市民に「わかりやすく」伝えることが重要である。しかし、一般的にNPOはその辺がとて下手である。自分たちの思いが強い分、「周りは当然わかってくれているもの」と勘違いしている人たちがまだまだ多いようだ。

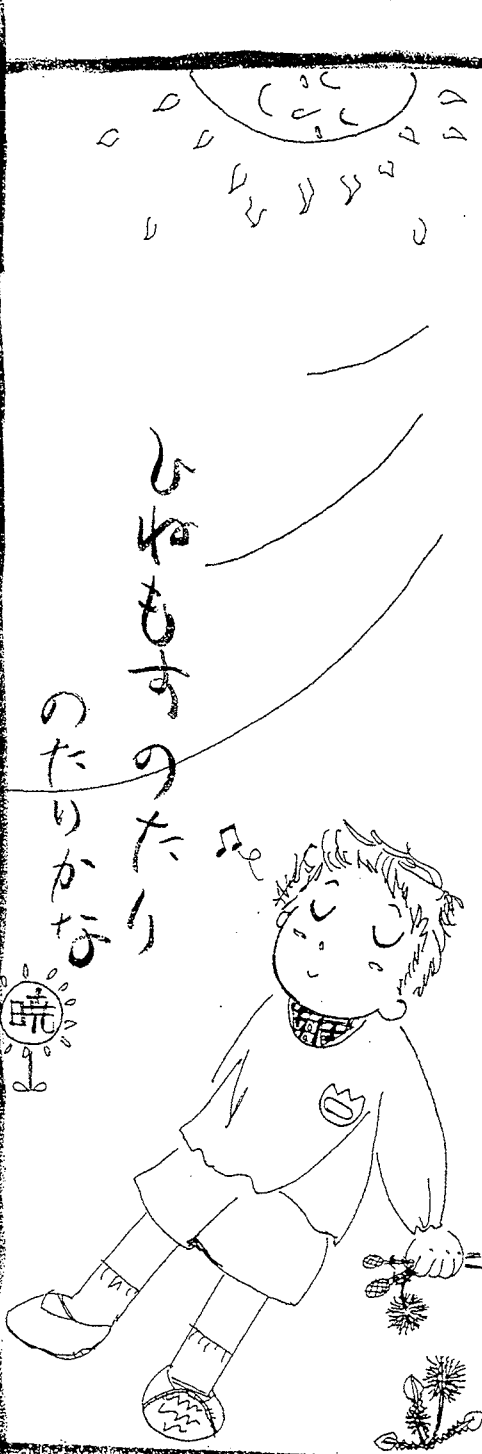
PMCを訪問した後に、NPOの広報をサポートする仕組みとして企画したものが「VOICE OF NPO」プロジェクトである。市民からデザイナーとライターを公募し、団体紹介のパンフレットを作りたいと思っているNPOとマッチングして、広報のあり方を学んでもらった後にパンフレットづくりを共同で行ってもらおうというものである。パンフレットを作るまでのプロセスはとて大変だったが、お互いの理解が進んでいくなかで、一種のCIができたことは大きな成果である。

これだけ様々な情報が世の中に氾濫していると、伝えたい情報がなかなか思ったように伝わっていかないものである。そこで情報を整理し、伝えたいターゲットにインパクトのある表現で伝えていく工夫が必要とされる。しかも、マスメディア、紙媒体、インターネット、口コミなど、あらゆる媒体をその特性に合わせて複合的に組み合わせることによって、効果的に団体のアイデンティティを伝えることが可能となるのである。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 針生英一

内容

「VOICE OF NPO PROJECT」活動報告
好評連載! 「らくだのぶくぶく」
地域貢献活動相談センター開設
地域貢献サポートファンド愛称募集
部会報告、事務局活動報告 ほか



■ NPOのための広報戦略プロジェクト ■

伝わりますか？“VOICE OF NPO PROJECT”

日本財団から助成を受け、昨年6月からスタートした、NPOのための広報戦略プロジェクト『VOICE OF NPO PROJECT』。杜の都にじわじわと広がる『共感の波』をレポートします。

キーワードは『共感』

『VOICE OF NPO PROJECT』のキーワードはズバリ、『共感』です。NPOの多くは、社会の切実な問題点に取り組んだ活動をしています。しかし、それが市民にとって必要な情報として伝わっているとは限りません。もし情報がきちんと伝わっていたのなら、それに『共感』した市民の参加や寄付の申し出、あるいはそのサービスを求めている人から連絡があるかもしれません。

ミッションに基づく活動が『共感』を呼ぶ時、それに呼び覚まされた新しい力が組織を支えはじめます。『共感』する活動の情報発信をするため、また、継続した『共感』する活動を生み出すために、『広報力』が大きな役割を發揮するのです。

『VOICE OF NPO PROJECT』とは

組織運営に欠かせない要素に、『人材・物資・資金・マネジメント・情報』があります。『VOICE OF NPO PROJECT』とは、『広報力』をアップしながら、この5つの要素を獲得することを目的とした事業で、主に2つの視点があります。1つはNPO。広報ツールの制作を通して、自分たちの組織のミッションを再確認し、最終的には組織力をアップしていこうという視点です。もう1つはNPOなんて全く知らない市民の視点。ボランティアをしてみたいけど、きっかけがなくて躊躇していたボランティア予備軍も含まれます。今回、「文章が書ける」「絵が描ける」という特技が活かせるメニューで、参加のきっかけを作りました。

13のドラマの誕生

『VOICE OF NPO PROJECT』は、NPO向けと市民向けの講座から始まりました。NPO向けの講座では、組織のミッションを再確認し、誰に自分たちの活動を伝えたいのか、情報の整理をしました。市民ライターと市民デザイナー向けの講座では、

初めてのボランティア活動に備えて「NPOってなあに？」から始まりました。その後、コピーとデザインの基本を学び、共同制作期間に備えました。

それぞれの講座を経て、13のNPOと21人の市民ライター、市民デザイナーが出会ったのが11月。共同制作期間の始まりです。各団体に市民ライターと市民デザイナーを派遣して、3者共同で団体紹介パンフレットの制作にあたります。目標は、1月の公開コンペでの発表と入賞です。

ハードルを跳び超えて

「市民ライターと連絡がとれない！」「団体の意見がまとまらない！」「技術が伴わなくて、団体のリクエストに応えられない！」「団体から全部任すと言われたけど、どうしたらいいの！」「市民デザイナーが行方不明！」いざ事業が始まると、ありとあらゆる悲鳴が、あちこちで上がりました。

「共同制作」を「発注」と勘違いしてしまった団体。お互いに自分から積極的になれなくて、三すくみになったチーム。一度に何百枚という団体資料を渡されて、石のように固まってしまった市民ライター。しかし、そうかと思えば、会ったその日から息投合したチームもありました。

当センターの事務所には連日、相談の電話・メール・FAX・手紙が届き、事務所を訪れて相談をする人たちも大勢現れました。どのチームも、個人相談とグループ相談（編集ボランティア会議）を上手く活用しながら、1つ、また1つとハードルを乗り越えて行きました。

新年を迎える頃には、ほとんどのチームが2山も3山も越えて、オリジナリティあふれるたくましいチームワークを築いていました。そして1月24日の『共感するパンフレット公開コンペ』では、1団体も欠けることなく、13団体全てがスポットライトの下に登場しました。

スポットライトの陰で・・・

NPOと市民ライター、市民デザイナーの回りにはもちろん、友人、知人、家族がいます。今回プロジェクトに参加した本人ばかりではなく、参加者の周りの友人、知人、家族にもさまざまな変化が見られました。例えば、団体資料としてコンドームを持ちかえった市民ライターは、思春期のお子さんのいる主婦でした。彼女の執筆活動の場、ダイニングテーブルには、たくさんの書類と一緒にコンドームが無造作に置かれていました。それを見たお子さんたちはどう思ったのでしょうか。彼女は、子どもたちとそのコンドームを片手に『性』のこと、『SEX』のことを話し合ったそうです。「今回、参加しなかったら、ポジティブに子どもたちと『性』の話はできなかったかもしれません。」というのが、彼女の感想です。

公開コンペの記事が、地元新聞に掲載されました。参加者の多くがその記事を指して、家族や友人「私、NPO活動しているの！今度これに参加するのよ！」と語ったそうです。それを聞いた相手のほとんどが、「NPOって何？あなた、そこで何をしているの？」と質問したそうです。参加者は、つい数ヶ月前まではまったくNPOを知らなかったのに、今ではNPOについて他人に説明するまでになっていました。そして自分の関わっている団体について、熱いエールを送る一番のサポーターになっていました。

広がるさざなみ

『VOICE OF NPO PROJECT』に関わった人達のほとんどから、「とても楽しかった」との感想が寄せられています。

それは、なぜでしょうか。

今回のプロジェクトの参加者には、様々な体験をしていただきました。楽しかったこと以上に、大変だったことが多かったように思います。特に「共同制作期間」は、人間関係や意見の食い違いなど、次々と発生するトラブルに多くの参加者が泣かされました。

しかし、それでも「とても楽しかった」と言いきる理由は、日常では味わうことのできない『成功体験』を経験できたからでしょう。

つまづき、ころび、格好悪い思いをしながらも、ある時は自力で、ある時はチームワークで乗り越えた自信。それが「とても楽しかった」という感想につながったのだと推測します。

人と人とのコミュニケーションの中で生まれる『成功体験』。『成功体験』があるかないかで、その人の人

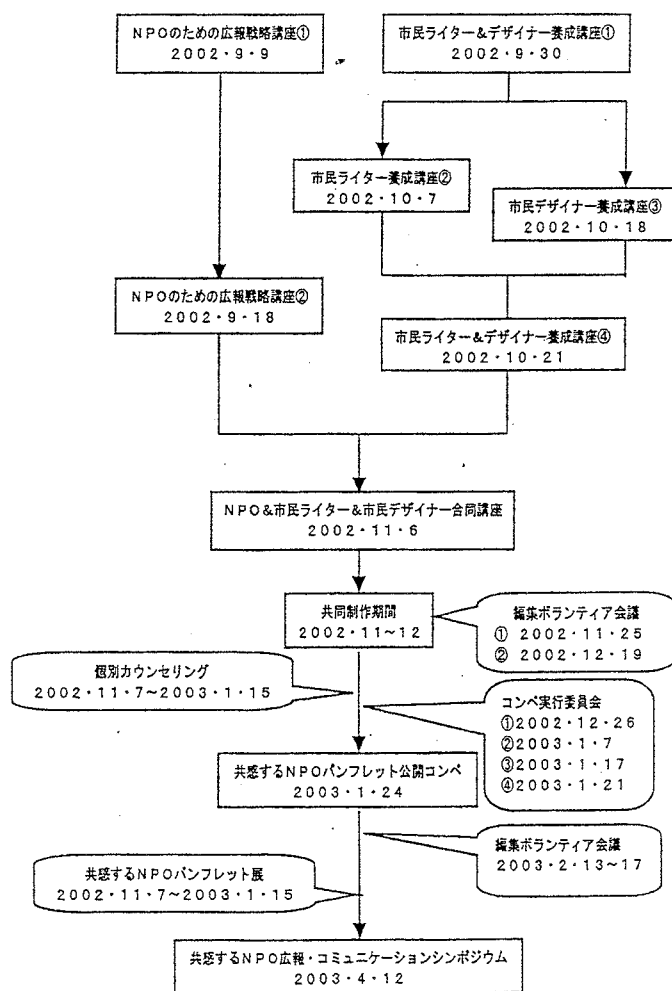
生は大きく変わるのかもしれませんが。実際、公開コンペの来場者の方が、涙するのを見ました。きっと、『成功体験』者のリアルな声が、『共感』を呼んだのでしょう。

多くの『成功体験』をたくさん生み出しながら、NPOの広報支援・後方支援をていく仕組み作りも、このプロジェクトの役割かもしれません。この続きは、『共感するNPO広報・コミュニケーションシンポジウム』にて！ぜひご参加を！

(VOICE OF NPO PROJECT)

プロジェクト・マネージャー 門間尚子)

■ 事業の流れ ■



『共感するNPO広報
・コミュニケーションシンポジウム』
日時：4月12日(土) 13:00~
場所：エル・パーク仙台 ギャラリーホール
(141ビル6F) 入場料：無料

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.4

せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長 紅邑 晶子

江戸切子 (えどきりこ)

先日、江戸切子の制作過程をテレビで見ました。下絵に沿ってガラスを削りながら、繊細な作品に仕上げていく芸術品。そのとき、削ったガラスの粉が飛び散らないように削る刃に常に水が噴出しているようでした。道路工事をしているときも、アスファルトを削る人の脇に水を流しつづけている人がいます。それを見ていて、組織のリーダーとフォロワーの関係を思いました。

リーダーというのは、未知なるものを創り出すために下絵を書き、かたちにするための刃先と考えると、その過程には困難が生じます。その過程をとともに支える人がいなければ、孤軍奮闘でしかありません。それでは個人で活動する事と変わりなく、組織だからこそ支える人、つまりその活動を補う人がいるはずで、この関係が良いバランスであることが、組織を長続きさせ、活動目的を達成させるコツ。そしてその両者が感謝の心と言葉を忘れないこと。

当たり前と思うかもしれませんが、えてしてNPO/NGOの中では、あるときはリーダー、あるときはフォロワーと立場がで変わるというケースが少なくありません。けれど、どちらの立場にあっても、リーダーとフォロワーの立場を良く理解し、その責務とはどういうことなのかをちょっと考えてリストアップしてみるといいのではないのでしょうか。

さて、リーダーはフォロワーに何を求めますか？どんなフォローをしてもらって、そのことに感謝をしていますか？フォロワーは、リーダーの何をフォローする事が自分の役割と考えて、そのためにどんなフォローをしていますか？それはリーダーに認められていますか？いずれの立場も体験しやすいNPO/NGOの世界。優れたリーダーといわれる側には、超・優れたフォロワーがいるものです。サッカーでも(中田選手)、野球でも(古田選手)、企業(ソニー・井深氏)でも。

フィッシュ！
世界一活気に満ちた魚市場発！

組織というものは生き物のようなところがあって、ちょっと放っておくと活気が悪くなってしまう。先日、「世界一活気に満ちた魚市場発！イキのいいオフィスへの4つのコツ」という呼び込みのコピーに惹かれて、『フィッシュ』という本を買いました。あっという間に読み終わり、その読後感は大変さわやか！その「4つのコツ」とは...

<イキのいいオフィスへの4つのコツ>

- * 態度を選ぶ：つねにポジティブな姿勢で出社するように心がけること
- * 遊ぶ：オフィスが活気にあふれるような遊び方を取り入れることが大事
- * 人を喜ばせる：顧客や同僚に対してエネルギーな楽しい雰囲気ですすめよう
- * 注意を向ける：人があなたを必要としている瞬間を逃さぬよう、いつも気を配ろう

・・・どうですか。フィッシュに書かれている「オフィス」のところを「組織・団体」と置きかえると、いつでも生き活きとした組織になるとは思いませんか？なぜこんなことを言うかというと、生き活き、ピチピチしていないところに人は集まってきません。社会を変えたい、地域の問題を解決したいという市民活動は、魚市場で言えば活きの良さが命。大事なものは、楽しく元気な組織体でありつづけることではないでしょうか。だって、元気で活気があって、笑い声のあるところのほうが、資金調達もうまくって、人材もたくさんいて、素敵なオフィスに入れるはず。その方が、暗くて愚痴や悪口ばかり聞こえてくる場所より、ずっと楽しいに決まっています。むしろ、お金がないことも、人が足りないことも楽しむ。(ちょっと負け惜しみが入ってるかも)。そうしてワイワイ・ガヤガヤやっているうちに、必要なお金や人がやってきてしまうものです。いかがですか、このフィッシュの4つのコツを活用してみませんか。

部会報告

■セナードサロン報告■

第72回「あなたの初夢が福を呼ぶ！

新春セナード大交流会」1/23

第73回「変わる！NPO法人制度緊急学習会」

2/20

第72回は「あなたの初夢が福を呼ぶ！新春セナード大交流会」でした。当日は大雪になってしまい心配しましたが、約20名が参加されました。各自2002年のできごとを振り返りつつ、初夢を見た人も見なかった人も大笑いしながら語り合っていました。もちろん例年通りおいしい料理（手作りもありました）とお酒の力（？）も交流に大アシスト！今年一年の市民活動のパワーを予感させる会となりました。

第73回は「変わる！NPO法人制度緊急学習会」でした。当初予定していた今春の改正NPO支援税制と、改正NPO法の説明会を急遽変更し、2月はじめに内閣府が発表したNPO法運用の新基準、及び公益法人制度改革についての問題点の解説、及び意見交換の場として開催されました。当日はNPO関係者を始め、マスコミ、行政、政党関係者など約60名が参加。社会的に力をつけてきた市民活動の芽を摘まれ、長年積み上げて来たNPO法人制度についての努力が水の泡に帰する危機に、参加者からは疑問やとまどい、怒りの声が多く寄せられました。これからの困難な状況とともに立ち向かおうとする市民の力を感じた2時間でした。（当日の様子は当センターのホームページをご参照ください）

（田中聡子・中務恵美）

■PONPO-NET報告■

第18回 2/12

2月12日は11名が参加し、今年度の振り返りと来年度に向けた話し合いを行いました。

今年度の成果としては主に、「参加者が多様だった」「話し合いだけでなく、現場に出ていって体験することができた」「毎回サロンマスターを設け、参加者にサロンの進行に関わってもらうことができた」「年間のテーマを決め、計画的な運用だった」というような意見が出ました。一方、課題としては「もっと参加者（NPO・企業・学生・行政）を増やす」「外部に向けて発信する」「魅力的なテーマ設定が必要」などの意見が出ました。

課題の具体的な解決方法としては「イベントをするまたは参加する」「知り合いを誘いやすくするためにツールを用意する」「企業の社内報で紹介してもらう」などのアイディアが出ました。

次回は4月14日（月）18:30より、宮城ゼロックスさんが地域のお客様との協働の場面を増やすために開設した部屋である、宮城ゼロックス1階「コラボレーションルーム」（カメイ五橋ビル）にて開催します。

また、PONPO-NETではメーリングリストを開設し、情報交換や意見交換を行っています。企業とNPOとの交流・連携に興味をお持ちの方のご登録をお待ちしております。

（中津涼子）



「県内巡回興行」無事終了!

「みやぎNPO支援センターネットワーク」活動報告

去る2月22日・23に仙台市戦災復興記念館を会場に、みやぎNPO支援センターネットワークの仙台講座を開催しました。本講座では、1日目を「10代、20代のNPO起業」をテーマとして設定。（特）キャリアナビの代表・平尾ゆかりさんの講演では「若者のお手本になる大人」へのインタビューを通じて、若者の仕事や生き方（キャリア）形成を支援するキャリアナビのこれまでの歩みと、その組織づくりの手法をパワフルな語り口で（一）熱く語っていただきました。また、2日目は「みるみる仲間が元気になる！人材マネジメント」と題して（特）多文化共生センターの田村太郎さんの講演を開催。特に、組織の成長に合わせる必要となる人材・組織づくりのエッセンスをまとめて伝授。この内容は、特にこれから事業を本格化させようと出席した参加者にとっては、大きなヒントとなったようです。

4月以降も、これまでの実績をもとに本ネットワークの事業は継続されます。乞うご期待！（土藤寛之）

春一番の大発表！！

「地域貢献活動相談センター」開所
& 「地域貢献サポートファンド」愛称募集

せんだい・みやぎNPOセンターはこの1年半で、中古オフィス備品類約1000点、中古パソコン100台、資金260万円を、サポート資源提供システムを通して、およそNPO約100団体に提供してきました。これらを中古市場の価格に換算すると、総額860万円にのぼる活動資源の提供（仲介）を行ったことになります。この活動によって、NPOの側にはサポート資源提供システムの存在が一定程度理解され、NPO情報ライブラリー登録団体も増加してきました。またこのしくみは、地域貢献の機会をさまざまな企業・団体に提供すると共に、NPOの信用創造や選択コストの低減を実現し、地域貢献へのハードルを低くする効果をもたらしました。

そこで私たちは、次の展開として、NPO支援と地域貢献に関心を持つ市民・企業・団体などが、さらにアクセスしやすいしくみをつくる必要を感じ、「地域貢献活動相談センター」の開所と「地域貢献サポートファンド」創設をめざすことにしました（2月の理事会およびサポート資源提供システム運営委員会において決定）。「地域貢献活動相談センター」は、何か地域に貢献したいと思いながら、なかなか実践に踏み切れなかった市民・企業・団体などに、実践例の紹介や、参加可能なプログラムを持つ地域のNPOの紹介、地域貢献プログラムの提案などの各種相談・コンサルティングを行うものです。毎月、相談日を決めて告知し、より多くの地域貢献を行う市民・企業・団体を開発します。

また、「地域貢献サポートファンド」は、資金による地域貢献のサポート部門で、従来のサポート資源提供システムの中の資金部門を、規約などを整備して強化、対外的にアピールするために、ファンドとしての名称を決め、愛称を募集するものです。資金と言えば官頼みになりがちなのこの国の風潮に一石を投じるためにも、「民が民を支えるしくみ」の創出が必須の課題であるとの認識で、理事会とサポート資源提供システムの運営委員会での議論を経て、今回の愛称募集に至ったもので、次年度当センターの重点事業になります。

ファンドの特徴は、資金提供者（寄付者・ドナー）の意向に沿う資金提供ができる点であり、成果の検証についてもNPO情報ライブラリーというしくみによって、恒常的に行われます。また、提供者と支援を受けるNPOとの交流にも積極的に対応していくことを考えています。このような地域の基金のしくみは従来、共同募金会、社会福祉協議会、日赤、新聞社、市役所など官と関わりの深いところが中心でしたが、私たちの地域貢献サポートファンドは、このような基金と競合するのではなく、このような基金では満足できない新しい資金提供者層を開発することをねらいとした民間主導の基金です。

（加藤哲夫）

■地域貢献相談日■

3/12（水） 4/9（水） 5/14（水）
6/11（水） 13:00～17:00の1時間単位
【要予約】

■ 事務局活動報告 (12/18~2/14)

活動
報告

■ 事務局/自主事業関連

- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (12/18・1/8・1/15・1/22・2/5・2/12)
- ・ PONPO-NET
「安全な食べ物の提供とスローフード」[今後の方針について] (12/18・2/12 紅邑・中津・松尾)
- ・ 市民ライター&市民デザイナー編集会議・共感するパンフレット公開コンペ・座談会 (12/19・1/24・2/13 紅邑・門間)
- ・ センター会議 (12/25・1/29)
- ・ 事業企画戦略会議 (第9回:1/6 第10回:1/29)
- ・ 事業・運営会議 (第53回:1/9 第54回:1/28 第55回:2/7)
- ・ NPOへの人財サポートシステムの開発「企業人を活かすボランティアマネジメント講座」「ワーキング」「研究会」 (1/15・2/1・5・18 紅邑・遠藤・真壁)
- ・ 事務局ミーティング (1/16・2/13)
- ・ サポート資源提供システム日本たばこ産業
④物品提供内覧会 (1/21 青木・高田)
- ・ 理事会 (第43回:1/21 第44回:2/14)
- ・ センダードサロン「大交流会」 (1/23 遠藤・田中・中務・紅邑)
- ・ サポート資源提供システム事務局連絡会 (1/28)
- ・ スタッフ面談 (12/24・1/7・14・23・28 加藤・紅邑)

■ NPO/企業関連

- ・ NPOパワーアップセミナー<上信越> (12/21)
・ <北関東編> (1/24)
／主催 (財) 住友生命社会福祉事業団 (加藤)
- ・ 「愛知県NPOに関する雇用状況調査」座談会
／主催: (特) パートナリシップ・サポートセンター (12/23 加藤)
- ・ 公開フォーラム5 元気な市民活動をめざして「どう活かすNPO支援センター」／共催: (特) 鎌倉市市民活動センター運営会議・鎌倉市 (1/11 加藤)
- ・ 第4回政策メッセ「現代社会における不安と新たな信頼の形成について」
／主催: 政策分析ネットワーク (1/12 加藤)
- ・ 「NPOとは?」／主催: 日本サービス・流通労働組合連合東北地区 (1/16 加藤)
- ・ 第4回巡回講座<白石編>／主催: みやぎNPO支援センターネットワーク (1/18・19 加藤・青木・工藤)
- ・ 新春懇話会「NPO法人のつくり方について」／主催: 仙台市重症心身障害児(者)を守る会 (1/24 青木)
- ・ 新春講演会「企業とNPOの連携」／主催: (特) 宮城マネジメント協会 (1/24 針生)
- ・ 「ソーシャルアントレプレナーワークショップ」／主催: 政策学校「一新塾」 (1/25・26 加藤)
- ・ 東日本カウンセラー協会設立記念式典 (1/25 青木)
- ・ 東北パートナーシップ研究ネットワーク秋田研究会
／主催: (協) プランニングネットワーク東北 (1/25 紅邑・高田)

- ・ NPOとの協働を考える講演とワークショップ
／主催: ぎふNPOセンター (1/27 加藤)
- ・ 企業とのパートナーシップでつくる子育て支援ネットワーク
／主催: MIYAGI子どもネットワーク (1/30 加藤)
- ・ 多文化セミナーinあいち
／主催: 日本財団 (1/31・2/1・2 加藤)
- ・ 全国ボランティアコーディネーター研究会2003実行委員会 (2/1 青木)
- ・ 第34回全国ボランティア研究会山形県庄内内集
／主催: 第34回全国ボランティア研究会山形県庄内内集実行委員会・(社) 日本青年奉仕協会 (2/9・10・11 加藤・紅邑)
- ・ 第6回野田一夫の独断と偏見シリーズ「日本人の表現力」
／主催: (財) 社会開発研究センター (2/13 加藤)

■ 自治体関連

- ・ アクティブシニア・ビジネスコンテスト審査会・相談会
／主催: 宮城県産業経済部人材育成課 (1/8・20 加藤・紅邑)
- ・ 福島市市民活動懇談会
／主催: 福島市 (1/14・2/6 加藤)
- ・ 仙台都市総合研究機構地域コミュニティ研究会 (1/16 遠藤)
- ・ みやぎNPOプラザ運営協議会 (1/17 加藤)
- ・ クリーン仙台推進員グループ研修
／仙台市環境局 (12/19 加藤)
- ・ 「住民協働ワークショップ」／主催: (財) ふくしま自治研修センター (1/22・2/4・5 加藤)
- ・ 百年の杜づくり若林フォーラム・太白フォーラム・泉フォーラム・宮城野フォーラム
／主催: 仙台市建設局百年の杜推進部緑化推進課 (1/23・30・2/12・13 紅邑・青木・松尾・佐藤・中津)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター市民活動起業講座「既存の枠組みを飛び越えて」「岩手・葛巻の山から村おこし」「宮城・蔵王の麓から街づくり」
／主催: 仙台市市民局地域振興課 (1/30・2/6・13 紅邑・中務・菅野・布田)
- ・ すくすく地球市民のつどい
／主催: 宮城県環境生活部青少年課 (2/1 田中)
- ・ 宮城県NPO促進委員会 (2/3 紅邑)
- ・ 仙台市社会教育委員会議 (2/4 紅邑)

■ 相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (1/9・2/14 加藤・青木)
- ・ ヒアリング: NPO birth (12/18 加藤)
- ・ 相談: やまがた育児サークルランド (1/9 加藤)
- ・ 視察: 市民社会団体協議会 (韓国) (1/15 紅邑)
- ・ ヒアリング: (特) 中部リサイクル運動市民の会 (1/16 加藤)
- ・ 相談: (特) 蔵王のブナと水を守る会 (1/16 加藤)
- ・ 視察: 岩手中部地区経営指導員連絡協議会 (1/22 紅邑)
- ・ ヒアリング: 兵庫県立人と自然の博物館 (1/30 加藤)
- ・ 相談: 東京海上火災保険 (2/6 加藤・紅邑)

サポート・ご協力 ありがとうございます (敬称略)

■平成13年度

●準会員 (1件)

太齋寛

■平成14年度

●新会員 (4件)

阿部和子 中山耕一 松尾敏行 野外ぐるりん友の会

●正会員 (29件)

生島ヒロシ (特) いしのまきNPOセンター (特) NPOふくおか 遠藤哲哉 大滝精一 男澤清勝 片倉玄 加藤哲夫 鎌田さゆり
菅野良嗣 くりこま高原自然学校 小島誠 CILたすけっと 佐々木圭 庄子平弥 仙台生ごみリサイクルネットワーク 白石市民活動フ
ォーラム 中村祥子 日本労働組合総連合会宮城県連合会 (特) パートナーシップ・サポートセンター 古川NPO支援センター運営委
員会 古川隆 MIYAGI子どもネットワーク (特) まちづくり政策フォーラム 真山隆宏 山岡義典 山田晴義 渡辺博之 遊佐美由紀

●準会員 (22件)

有谷昭男 沖永哲哉 上野和弘 長田洋子 楠木雅弘 小嶋淳一 小玉順子 齊藤衣代 笹尾恭子 佐々木孝行 佐藤和夫 須藤達也
世古一穂 (特) 仙台インターネット推進研究会 太齋寛 丹野修 橋本毅 早坂恵美 廣野純朗 藤田佐和子 横ひさ恵 三浦隆弘
三宅まゆみ

■ボランティアスタッフ (五十音順、敬称略) 葛西淳子、国分伸矢 細野泰志、門間由記子

■企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室提供)、富士ゼロックス(カラーコ
ピー機を社会貢献価格にて)、ペネッセコーポレーション東北支社(会議室提供)

せんだい・みやぎNPOセンター主催の催事・イベント

●地域貢献活動相談

日時：4月9日 (水) 13:00~17:00
5月14日 (水) 13:00~17:00
(お申し込みは1時間単位になります)

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

●共感するNPO広報・コミュニケーションシンポジウム

日時：4月12日 (土) 13:00~17:00
場所：エル・パーク仙台ギャラリーホール

●NPO経営相談

日時：4月15日 (火) 13:00~17:00
5月20日 (火) 13:00~17:00
(お申し込みは1時間単位になります)

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

アドバイザー：加藤哲夫

相談料：会員2000円、非会員2500円 (1時間)

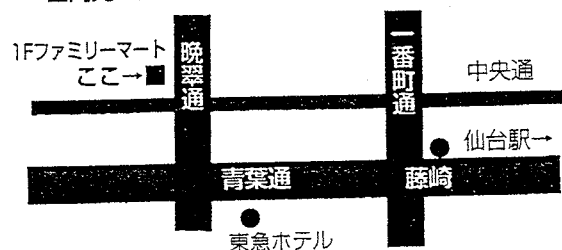
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらどうぞ。
郵便振替口座 02260-3-16325
加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

5周年記念誌 好評発売中!! 1000円 (税込)
せんだい・みやぎNPOセンターの仕事
NPOサポート・SENDAIモデル

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■“はるみ”が届いた。といっても、これは愛媛のみかんの名前。先日、当センターを尋ねてくれた青年から届きました。不摂生が目立つ私の労働状況には、潤いのビタミンCはありがたいばかり。正しいみかんの味がして、甘めのみかんに辟易していたので、さらに大感激! すわ追加注文と連絡したところ、すでに売り切れ。はるみに会うのは、来年になりました。(紅邑) ■今月号は、編集長の遠藤(智)さんがサンフランシスコへ遙かなる研修旅行(!?)に旅立たれたため、編集作業は工藤が行いました。が、Mac様におかれましてはなかなかたくしめを受け入れていただけず・・・これを機に春から“Mac精進”に励もうと思つたきょうこの頃でございます。(工藤)